

「進取の精神」に基づくあくなき挑戦と 誠実な企業活動をもって、 皆様の信頼にお応えしてまいります。

企業理念に基づき、社会への責任を果たします

OKIは、日本最初の通信機器メーカーである明工舎を前身とします。創業者の沖牙太郎は、1881年（明治14年）、グラハム・ベルが電話機を発明したわずか5年後に明工舎を設立、電話機の国産化に挑戦して、今日のOKIグループの礎を築きました。私たちは、この創業以来の、「新しい技術で新しい事業を興す」「世の中を便利にしたい」という強い意志を受け継ぐ企業理念“OKIは「進取の精神」をもって、情報社会の発展に寄与する商品を提供し、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献する。”を、OKIグループの考える「企業の社会的責任（CSR）」の根幹としております。

商品・サービスを通じ、社会に貢献します

OKIグループは、企業理念のもと、商品・サービスを通して社会に貢献することを使命としてきました。社会のニーズの的確な把握、技術の確立、お客様にご満足いただける品質の作りこみ、そして安心してご利用いただくための保守体制の維持という、営業、技術、生産、保守一体の活動を積み重ねた成果として、国内ではキャリアの通信インフラ、金融機関向けシステム、交通・防災をはじめとしたさまざまな公共システムなどの供給・維持という重要な役割を担い、またATMやプリンタは海外でも広くご利用いただいております。

変化の激しい時代にあっても引き続きお客様、そして社会の期待にお応えしていくため、2013年11月に発表した「中期経営計画2016」においては、「安定収益の確保により成長分野に継続投資し、持続的成長を実現する」という経営方針とともに、OKIグループがめざす姿として「安全で快適な社会の実現に貢献する高付加価値創造企業グループになる」ことを掲げました。ATM、プリンタを核とした「グローバル市場での事業拡大」、クラウドサービスや保守・EMS事業を通じた「お客様の『持たない経営』の支援」、そしてICTによる「安全で快適な社会の実現」の3つを柱に成長に向けた取り組みを加速するとともに、社員一人ひとりが「マーケティングとイノベーション」を行動の軸とすることで、高付加価値創造企業グループとしてのあるべき姿を実現してまいります。

グローバル企業として責任ある経営を推進します

OKIグループは責任ある経営を推進するため、グループの全企業が共有すべき価値観である「OKIグループ企業行動憲章」、そして全役員・社員がとるべき行動の規範である「OKIグループ行動規範」を定めて、その徹底に努めております。また2010年には「国連グローバル・コンパクト」に参加し、グローバル・コンパクトの掲げる人権・労働・環境・

腐敗防止にかかわる10原則に照らして、CSR活動の一層の強化を図っております。中期経営計画の大きな柱であるグローバル市場での事業拡大を進める中で、グループとしてのガバナンスを強化するとともにグローバル企業として果たすべき責任を的確に認識・遂行し、持続可能な社会づくりに貢献できるよう取り組んでまいります。

「OKIグループ環境ビジョン2020」に則り、 より良い地球環境の実現に貢献します

このような視点から、いまOKIグループが考える最も重要な企業活動の一つが、環境負荷低減への積極的な取り組みです。OKIグループは、グローバルな環境課題をふまえてより良い地球環境の実現に貢献すべく策定した「OKIグループ環境ビジョン2020」において、「低炭素社会の実現」「汚染の予防」「資源循環」「生物多様性保全」の4つの分野で2020年の目標を設定しております。この目標の達成に向け、事業活動および商品における環境負荷低減の取り組みを強化してまいります。

この「社会・環境レポート2014」を通じ、ステークホルダーの皆様へOKIグループの取り組みをご理解いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2014年6月

沖電気工業株式会社
代表取締役社長

川崎 秀一

